



2016教育改革推進!!

AL授業実践レポート Vol.2

5月20日(金) 1限/高1Aクラス/数学β
担当: 羽広先生

単元と目標: ベクトルの内積の計算ができるようになる。

今回は1~3までが全員達成ライン、4, 5の問題は発展学習。
生徒の名前が書かれた磁石シールが貼られ、
終わった人から自分の名前を移動させていくシステム。

『学び合い』…上越教育大学の西川純先生が開発・提唱されている授業スタイル。すでに全国の多くの教員による実践例があり、関連書籍も多数。活動班を作らず、「一人も見捨てない」クラス作りをベースに、生徒の能動的学習態度と倫理的能力(=生きる力)を育む。



黒板には解答掲示。解き終わった生徒は各自確認に来る。



開始直後

「ねえ、どうやんの？」
数学が苦手な生徒たちは、さっそく相談を始める。

教卓にも解答がある。答え合わせしながら教え合い。



25分後



15分後

数学が得意な子は複数グループから引っ張りだこ。友だちに頼られ、何度も説明するうちに教える生徒の学びはより深くなり、教わる生徒も、友だちから教えてもらっている間は学ぶ意欲が継続する。

羽広先生の授業は全部自分たちで考えるからすごく楽しい。授業が楽しいから、家でも数学を勉強したくなります。 by 窪田くん

〈羽広先生に質問〉

- Q 生徒たちへの4月当初の印象は？
→A 「やるぞ」という思いが伝わってこなかった。あきらめ感。そんな無気力な空気を変えたかった。8割動けばクラスは変わります。
- Q 『学び合い』の授業スタイルを始めたのはいつから？
→A 教員1年目の2学期から。今年で5年目です。
- Q 生徒に提示する毎回の課題が授業の要になりますね？
→A これは僕の授業の命。毎回提示する量と難易度を吟味します。
- Q 先生の理想形が10だとすると、今は何段階くらい？
→A 1か月半で4段階。予想を超えたペースで驚いています！



一人の脱落者もなく、生徒たちは全員、本時の目標を達成した。

授業のラスト5分は先生からの声かけ。今回は生徒の活動から「いいところ」(=広まってほしい考えや行動)を5つ紹介されました。押しつけでなく問いかけながら語る先生の言葉は、生徒の心にずっと入っていく確かさと柔らかさがありました。そして何より、Aクラスの生徒たちが40分もの間、やらされ感なく自ら学習し続ける「学びの場」が創られていることに非常に感銘を受けました。1年後の成長が楽しみです。(森内)